

教育長報告

1 報告事項

平成16年第2回沖縄県議会(6月定例会)における質問・答弁概要について

2 事項の説明

平成16年6月29日に開会した平成16年第2回沖縄県議会(6月定例会)における代表質問、一般質問において主に次のような質問等があった。

○ 主な質問事項

- (1) 教育基本法の改正について：具志孝助、渡嘉敷喜代子
- (2) 英語教育特区について：具志孝助、国場幸之助
- (3) 県立美術館建設について：具志孝助
- (4) 小中校の老朽校舎改築について：仲里利信、前田政明
- (5) 子どもの安全対策について：仲里利信、金城勉、国場幸之助
- (6) 多発する子どもによる事件について：狩俣信子、渡嘉敷喜代子
- (7) 少人数学級編成について：狩俣信子、前田政明、嶺井光
- (8) 達成度テストについて：狩俣信子、国場幸之助
- (9) 義務教育費国庫負担の堅持について：狩俣信子
- (10) 職業観、就職観の教育について：金城勉
- (11) 青少年の健全育成について：仲田弘毅、安里進
- (12) 県立高校の市有地敷地の購入について：高嶺善伸
- (13) 離島やへき地におけるゆとり教育の実施について：高嶺善伸
- (14) 児童生徒の健康教育、特に食教育の実践について：比嘉京子、渡嘉敷喜代子
- (15) 高校授業料減免について：外間久子
- (16) 給食後の45分間休憩時間の配置について：渡嘉敷喜代子
- (17) ハンセン病問題について：奥平一夫
- (18) 高校教育の進路の取組状況と中退対策について：赤嶺昇
- (19) 本務教員数と臨時教員数の他府県との比較について：赤嶺昇
- (20) 病休教員の数と推移について：赤嶺昇
- (21) 今後の職員採用計画について：赤嶺昇
- (22) 学校の統廃合による地域、市町村の影響について：吉田勝廣
- (23) 全国高校総体沖縄県開催について：照屋守之
- (24) 道徳教育の現状について：国場幸之助
- (25) 子どもの居場所づくり事業について：国場幸之助
- (26) 「教職員評価システム」の内容について：国場幸之助

- (27) 不登校児童生徒の安否確認体制について：国場幸之助
- (28) 学校施設の耐震化対策について：国場幸之助
- (29) 障害児の教育環境の改善について：嶺井光
- (30) 六論衍義の「六論の心」について：安里進
- (31) 県立宮古養護学校の改築について：砂川佳一

このうち、「少人数学級編成について」「今後の職員採用計画について」「児童・生徒の健康問題について」「『教職員評価システム』の内容について」「県立宮古養護学校の改築について」についての答弁要旨は、次のとおりです。

少人数学級編成について

質問要旨： 学級編制基準の改善と少人数学級の拡大について伺います。

答弁要旨： 本県の学級編制基準は40人で1学級を基本としておりますが、児童の発達段階を踏まえ、小学校低学年を対象に、1学級の児童数が40人に近くなる学級を30人前後になるよう改善しております。

また、その他の学年につきましても国の定数改善計画により、指導方法工夫改善定数として加配教員を配置し、学級集団を習熟の程度に応じ、少人数に再編制する少人数指導を実施しております。

今後については、国の定数改善計画や、学年の児童生徒数、学校の実態等を十分考慮し、小学校低学年の少人数学級編制を継続できるよう、努めてまいりたいと思っております。

今後の職員採用計画について

質問要旨： 今後の職員採用計画を示して下さい。

答弁要旨： 教員の採用については、毎年、教員候補者選考試験を実施し、人間性豊かで、実践力を有する教員の採用に努めているところであり、平成16年度は454人採用しております。

今後の採用については、年度ごとに示される国の教職員定数計画や児童生徒数の増減に伴う教員数の変動、退職者数の推移、学校における需給計画などを踏まえ、年度ごとの必要数を算定し、採用を行っていきたいと考えております。

児童・生徒の健康問題について

質問要旨： 学校給食を通して行ってきた施策について伺いたい。

答弁要旨： 県教育委員会では、「食に関する指導を通した望ましい食習慣の形成を図ること」を施策として掲げ、学校給食を通して生活習慣を改善し、生活習慣病の予防に取り組んでいます。

具体的には、「学校給食における管理・指導の手引き」や実践事例集を発行し、同手引き等に基づいて各学校の年間指導計画を作成するよう指導しております。

また、学校栄養職員等を対象とした研修会を通して、肥満傾向等の児童生徒に対する個別指導の充実を図るよう指導しております。

さらに、研究校を指定し、食に関する指導の普及啓発に努めております。

『教職員評価システム』の内容について

質問要旨： 「教職員評価システム」の内容と、将来的には埼玉県のように給与に反映する考えもあるのかどうか。

答弁要旨： 県教育委員会は、幼児児童生徒の教育保障、教職員の資質向上、学校の活性化、説明責任を目的に教職員評価システムを導入することとしております。

その内容は、目標管理を基本とした自己申告と業績評価の二本柱となっております。具体的には、教職員は年度当初に校長の学校経営目標に基づいて自己申告をし、校長・教頭との面談を通して自己目標を決定します。年度末には校長等が自己申告書や業務状況等をもとに業績評価を行い、教職員の職能成長に活用していくものであります。

なお、給与への反映につきましては、国や各都道府県の動向を見ながら、本県の実情等も考慮し検討していきたいと考えております。

県立宮古養護学校の改築について

質問要旨： 県立宮古養護学校の早期新築について伺います。

答弁要旨： 宮古養護学校は、知的障害のある児童・生徒を教育する養護学校として小中学部が昭和52年度に、高等部が昭和55年度に設置され、現在は、41人の児童・生徒が在籍しています。

県立特殊教育諸学校編成整備計画においては、校舎と寄宿舎の改築及び幼稚部の設置が必要な学校として計画されています。

同校の校舎等は、ほとんどが建築後25年以上を経過しており、現地調査の結果、耐力度の低下が認められることから、県教育委員会としては、現在地での早期の全面的な改築を予定しています。

○ 文教厚生委員会において以下の陳情の審議が行われた。

陳情19件（新規19件）

- 1 沖縄県立宮古農林高等学校の「農業単独校」としての存続に関する陳情（第40号）
- 2 統合教育の推進に関する陳情（第48号）
- 3 県立宮古農林高校の「農業単独校」としての存続に関する陳情（第50号）
- 4 サラ金被害から県民を守り、安心して生活・営業ができることを求める陳情（記事項の2）（第52号の2）
- 5 30人以下学級の全学年早期実施と「義務教育費の国庫負担」制度の堅持を求める陳

情第54号)

- 6 ハンセン病問題に関する陳情(記事項の1)(第55号の2)
- 7 30人以下学級の実現と教育条件の整備を求める陳情(第57号)
- 8 男女平等社会を目指し、「ジェンダーフリー教育」を推進することに関する陳情(第58号)
- 9 「珊瑚舎スコーレ・夜間中学校」に関する陳情(第60号)
- 10 義務教育諸学校の学校事務職員・栄養職員給与費の義務教育費国庫負担制度からの適用除外に反対することについての意見書提出に関する陳情(第62号)
- 11 沖縄県立博物館新館・美術館建設工事への県内優良建設業者の優先活用に関する陳情(第64号)
- 12 沖縄県立宮古農林高等学校の「農業単独校」としての存続に関する陳情(第65号)
- 13 県立高校敷地内の市有地一括買い上げに関する陳情(第68号)
- 14 知念高校に対し、私の娘の人権に最大限配慮するよう善処を求める陳情(第78号)
- 15 学校ボランティア制度の導入を求める陳情(第79号)
- 16 任意団体「学校父母会」への入会活動への協力を求める陳情(第80号)
- 17 知念高校に善処を求める陳情(第81号)
- 18 県(教育委員会)は1991年4月1日にさかのぼって私に県職員(県立特殊教育諸学校実習助手)の身分と地位を与え、即時職場復帰させるよう求める陳情(第82号)
- 19 親の教育権を保障するよう知念高校に善処させるよう求める陳情(第83号)

○ 米軍基地関係特別委員会において以下の内容が審議された

「名護市辺野古沖のボーリング調査について」

※教育庁関連の質疑なし

○ 観光振興・新石垣空港建設促進特別委員会において以下の内容が審議された

「観光振興に関する県の取り組みについて」

- ・国立劇場おきなわの今後の活用(外間久子)
- ・八重山商工の商業観光コースの設置について(辻野ヒロ子)

平成16年第11回県教育委員会会議

教育長報告

1 報告事項

平成17年度教員候補者選考試験第一次合格者の決定について

2 事項の説明

去る7月25日(日)に実施した平成17年度教員候補者選考試験の第一次合格者を次のとおり決定した。

第一次合格者数

試験区分		応募者数	受験者数 a	第一次合格者数 b	合格率 c=b/a (%)
小学校	平成17年度	1,561	男 : 女 431 : 1,053	男 : 女 75 : 101	11.9
	(平成16年度)	(1,539)	1,484 (1,466)	176 (180)	
中・高校	平成17年度	3,710	男 : 女 1,568 : 1,838	男 : 女 163 : 157	9.4
	(平成16年度)	(3,587)	3,406 (3,326)	320 (385)	
養護教諭	平成17年度	222	男 : 女 2 : 204	男 : 女 0 : 35	17.0
	(平成16年度)	(217)	206 (200)	35 (25)	
合計	平成17年度	5,493	男 : 女 2,001 : 3,095	男 : 女 238 : 293	10.4
	(平成16年度)	(5,343)	5,096 (4,992)	531 (590)	

本年度の試験結果の特徴として、次の3つがあげられる。

- (1) 受験者数は毎年増加傾向にあり、今年度も昨年度より104人増え、合計で5,096人と過去最高となっている。
- (2) 受験者数の男女比は、男性2,001人(39%)、女性3,095人(61%)で、女性が男性のおよそ1.5倍である。
- (3) 第一次合格者数は531人(10.4%)で、昨年度590人(11.8%)より1.4%厳しい状況となっている。

※ 第二次試験は、8月23日(月)、24日(火)、25日(水)に実施する。

【適性検査、論文、パソコン実技、小学校体育・音楽実技、共通家庭実技及び面接(個人面接・英会話・模擬授業)】
第二次試験の合格者の決定は10月上旬の予定である。